

小学校 6年( )組 ( )番 名前( )

学校教育目標や育成したい資質・能力を踏まえ、6年生の目指す姿を配付前に教職員が記入しましょう。6年生がイメージできるような具体的な姿で示すことがポイントです。配付時には、教職員の思いを児童に説明しましょう。

卒業するときにはこんな自分になりたい

今年度末の自己の目指す姿を児童自身に設定させます。「〇〇の場面で〇〇ができるようになる。」といった具体的な姿や態度で設定させてください。



広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力

○自己を認識する力

自分は何かをすることができる力

○自分の考えや感情を表現する力

○表現する力

○表現する力

「広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」を記載しています。意図は、小学校段階から15歳という義務教育終了時の自分の姿を意識させるためです。おそらく、読んだだけでは理解できない箇所もあると思います。ぜひ、児童への配付時には当欄の記載について触れ、今後、どのような力を伸ばしていく必要があるのかについて説明しましょう。

力のこと

ことができる力

業の使い方や

### 1学期

こんな自分になりたい

今年度末の自己の目指す姿を踏まえて、自らの目指す姿を設定させてください。目指す姿が書けない児童は、頑張ることを書かせてもよいです。

### 2学期

こんな自分になりたい

前の学期と内容が同じになる児童もいます。頑張り続けていることとして認め、無理に変更させることがないようにしましょう。

### 3学期

こんな自分になりたい

1年間をふり返って、最高学年としてがんばったことやみんなのためにしたこと、成長したと思うこと

どんな些細なことでもよいです。自分の成長を気付かせてください。学級活動等で、他者からの評価をもらうことも有効です。これまでの学年と比較し、自分の成長を振り返ることで、この1年間の成長を実感させることも考えられます。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふり返りましょう (学習面)

これまでの授業や学校行事の記録、上記の「なりたい」姿などを基に記入させます。「なりたい自分にどれだけ近づけたか」という視点が難しい児童は、第4学年のシートと同様に、学期の振り返りを考えるように、と声掛けをしましょう。「できた・できていない」だけでなく、できるようになるために行動した自分にも気付かせることが何よりも大切です。できるようになっていなくても、そこに向けて力を注いだことがあることを伝え、「〇〇を続けた」など児童の努力を自覚できるようにし、頑張り続けていることとして、肯定的に捉えられるよう支援をしましょう。

( )は、児童に設定させてください。今学期頑張ったことなどを考え、自由に設定して構いません。学期ごとに違うことも考えられます。自分で設定することが難しい児童の場合、教職員が例示し、選択させるという方法も考えられます。

なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふり返りましょう (学習面)

(生活: そうじの時間、係活動、クラブ活動、学校行事など)

(家庭や地いき)

( )

なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふり返りましょう (学習面)

(生活: そうじの時間、係活動、クラブ活動、学校行事など)

(家庭や地いき)

( )

小学校生活をふり返って (成長したと感じたことやそのきっかけ)

「キャリア・ログ」やその他の資料で振り返ることで、成長を実感させるようにします。

しょう来は、こんな大人になりたい

頑張ったことや自分のよいところを振り返った上で、将来なりたい自分について、じっくり考えさせることが大切です。また、なりたい大人像や就きたい仕事を考え、それと日々の生活を結び付けることも重要です。児童の記述が不十分と感じた場合、記述内容を認めた上で「そう思った理由やきっかけ」を考えさせ、記述させましょう。

先生や家の人から児童の頑張りやできるようになったことなど、気付いたことを積極的に伝えることで、児童が自らのよさや可能性を見いだしたり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。十分に振り返りが書けなかった児童に対しては、児童自身が自覚できなかったよさや可能性などをメッセージとして送ることで、将来、自分の成長を振り返ることができます。